

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300104		
法人名	株式会社あいわ		
事業所名	グループホームあいわ		
所在地	佐賀県小城市芦刈町永田3220-2		
自己評価作成日	令和6年2月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年2月27日	外部評価確定日	令和6年3月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 新型コロナウイルス感染症が第5類となり生活がウィズコロナとなった現在における正しい感染症対策と生活のあり方の情報アップデート</p> <p>② 病院との密な連携、即時の対応</p> <p>③ ウィズコロナにおける研修の受け方、認知症等勉強会への参加と個々の理解の推進</p> <p>④ 旬の食材を取り入れた食事や行事食で季節を感じ、楽しんで頂く事、自分で作る楽しみを感じて頂くおやつ教室の実施、ホームの菜園で育て収穫する嬉しさ等、食への満足・栄養・免疫を考慮した食事の提供</p> <p>⑤ コロナや遠距離の都合で入居者様に会えない御家族様への電話・写真・動画・文による詳しい近況の報告</p> <p>⑥ 職員にとっても、入居者様にとってもより良い運営を行うための定期的なアップデート</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>前事業所を引き継いで7年目を迎える。利用者、職員、理念も変わる事なく引き継がれている。六角川の麓の昔ながらの集落の中に事業所があり溶け込んでいる。騒音もなく静かな環境の中明るいホームで利用者はのんびりと穏やかに過ごされている。玄関には季節の花が訪問者を迎えてくれ、写真でスタッフを紹介されている。管理者は「ホームを家と思ってもらいたい」「安心の場」「笑顔で挨拶」を大事にされ職員も理解されている。手を取り合い、ぬくもりや表情を観察し思いを感じ寄り添い安心されている。利用者、家族、職員はどんな疑問を持っているか把握する為アンケートを実施し話し合い解決されている。利用者はラジオ体操、発声練習等を日課とし体調管理も行われている。コロナ禍の中でも利用者が好きなように暮らせるように楽しまれること、喜ばれる事を支援されている。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交わりの中でゆっくりと穏やかにお互いを尊重しあう」を理念として、目に付きやすい玄関、リビングに掲げ意識し、実践できるように職員間で共有している。	前事業所の理念を変える事なく引継ぎ利用者の安全を守りゆっくり、穏やかにを大事にを申し送りの際やラインで共有している。玄関やリビングにも掲げてある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方に消防訓練に参加してもらっている。また散歩の際は声をかけていただいたり、除草作業にご協力いただいたり、お野菜をいただいたりとの交流がある。また近所の方との話題にと菜園に植物を植え、実際にお声がけいただき交流の一助となっている。	町内会に参加し行事等の情報は得られている。コロナ禍も落ち着き行事にも少しづつ参加を期待されている。利用者は地元が多く、散歩の際は顔見知りもあり、話しが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時は地域の方と挨拶を交わしたり雑談したりと交流を行っている。消防・消火訓練にもご参加いただいている。ちょっとした会話の際にご紹介できるよう玄関にパンフレットを常備している。また入居者様に会いに見えられた御家族様の様子の変化に気づき、スタッフが然るべき機関にお繋ぎし支援することができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	支援の状況、入居者の状況や、実施内容等の報告を行い、ご意見をいただいている。書面での提出時は事前に電話で伺い、意見などは代表者に報告し、支援に活かしている。	コロナ禍の為現在家族の参加はない。年々職員の高齢化が進んでいるが定年を廃止し、健康な限り働いてもらいたい等話し合われている。参加者からは料金の事や議題について質問があり、職員は丁寧に説明されている。今後は家族の参加も計画されている。報告は家族にも報告され意見もお願ひしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防の為、密の連絡は取れていないが、必要時は電話で連絡を取るようになっている。 また、地域役員様、民生委員様に地域の状況を聞いてアドバイスを頂いたり、空き状況や紹介の相談を行っている。	行政から研修の案内や情報を得られ必要に応じて参加されている。その結果は会議の時に報告されている。現在空きが出ていることも相談されている。面会に来る家族の様子の変化に気づきおたっしや本舗に相談され、安心された事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はしていない。 見守り重視、状況に応じ居室にて休息を行っている。 研修会に参加し、研修後は職員間で内容を周知し理解を深めている。 身体拘束適正化の為にチェックを毎日行っている。	外部での研修に参加したり、事業所で虐待防止と共にマニュアルを作成し、全員参加でスタッフ会議を行い、記録されている。身体拘束について共有し、その弊害も理解されている。外出願望の方もあるが見守りで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加している。また、研修後は職員間で内容を周知し理解を深めている。 言葉、表情、態度が虐待に当たらないよう注意し、職員間で気付き、言える環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について厚生労働省の資料により周知を行っている。また、実際に入居者様、御家族の成年後見制度に関わる機会があったので、今後勉強会により一層理解を深め、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、きちんと理解や納得を頂けるよう説明を行っている。 疑問点については契約時以外にもいつでも尋ねて頂けるよう言葉かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは毎日の関わりの中で観察を行い、要望を聞いたり、御家族様には面会時等に状態報告し要望、疑問点等をいただくようにしている。 また今年度より、より気軽にご意見ご要望をいただけるように、御家族様へ定期的に匿名提出でアンケート調査を行い運営に反映する試みを始めた。因みにこの試みはグループホーム交流会で他施設様の案を参考にし取り入れたものである。今後も交流会などを通じ意見交換等でより良い運営へ活かせたらと考えている。	現在コロナ禍の為面会制限があるが、面会時や電話で要望や意見を問い掛けている。料金の問い合わせもあり、説明されている。今回家族アンケートを実施し改善出来る事、工夫について話し合いケアに活かされている。アンケートは他の事業所を参考に作成されている。問題点は会議の際に検討され改善されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の他、その都度意見を出してもらい、検討、改善するようにしている。 代表者や管理者に直接言いにくいことは窓口を設け、窓口担当を通じ声を頂ける様にしている。またこの窓口はハラスメント相談窓口と一とし、様々な声を聞けるようにしている。 また、匿名提出形式で社内アンケートを実施し、福利厚生、日頃の小さな疑問や要望の声を聞き、運営に関する改善を図っている。	職員からは日常的に意見が出る。管理者は職員の意見に対し、まずは否定しないでやってみる事や別のパターンを考える事を大事にされている。半年に1回社内アンケートを実施し職員雇用の安定や定年制、長期雇用について話われ、働きやすいように工夫されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の働きを見て、貢献を評価するようにしている。またアンケートを実施し自己評価や、尊敬するスタッフ、またその内容など記してもらい他職員をリスペクトする意識を持ってもらう機会を作った。日頃の状況やアンケート内容も加味し、代表者から見えない部分の評価も取りこぼさないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議での問題提起や、職員間で情報を共有しケアの向上に努めている。 また、必要と思われる研修などを積極的に受け、研修を受けた者はスタッフ会議で報告し、他職員も学びを得られる様にしている。 介護初心者にはパソコンを貸与し、eラーニングにて基礎研修の受講と、ベテラン職員からの指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症対策の為に対面式の交流会はなるべく控えめにし、Zoom参加のできるグループホーム交流会へ参加をし、サービス向上や、日頃の悩みなどの相談など意見交換を行った。また、対面式の交流会は小城市開催の他職種交流・研修会に参加し、グループワークにて認知症への学びを深めた。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集等は御家族様にもご協力頂き、入居時の説明をしている。 意見交換時には本人様の意向を汲み取り、傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のお話を十分に伺い、不安や疑問に思っていることにお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	紹介先、御家族様、介護支援専門員より生活歴、好まれること、嫌いなこと等情報を詳しく収集し、支援計画を立案し伝達を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に応じた関係の確立と対応で御家族様との連携を取り、対応している。 入居者様のその時の情報は職員間で共有し、状態に合った対応をし寄り添えるよう支援している。やれることで喜びや、楽しいと思える事をして頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の苑便りでは、入居者様の日頃の過ごし方が分かる写真や、個人のプライバシーに配慮し、御家族様だけが観られるQRコードの利用で入居者様の動画をご覧いただいている。 一人ひとりで違う内容の苑便りで詳しくお伝えできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防の為、御家族様との面会は窓越しや電話での対応で行っている。 思い出の写真や届いたお便りはお部屋に飾っていつでも見られる様にしている。 入居者様の御家族の方の葬儀では、夫婦2人でお子様がいらっしやらず、ご親族も遠方にお住まいでお別れへの参加が難しいケースがあり、職員が付き添い、葬儀の参加の対応となった。	利用者は地元の方も多く、家族、親戚の面会も多い。職員は面会者を把握している。現在コロナ5類であるが面会制限している。予約制で窓越しでの面会である。動画や利用者個人のQRコードを使用して利用者の様子を知る事が出来る。「苑たより」を毎月1回発行し生活の様子を写真を家族に送付し家族は安心され喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状態を十分に理解した上で個性を尊重し、リビングで寛げる空間の調整を行い、何か問題があればすぐ改善できるよう良好な関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望に応じ、その都度対応できるようお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、入居者様個々の思い、要望が汲み取れるよう職員間での情報把握に努め、対応が共有できる様にしている。 伝達ノート、共有ラインを利用しその都度検討、改善を行い意向に添えるよう努めている。	利用者とはゆっくりとした時間やレクリエーション、風呂の時間に話が出来る。食べたいもの、行きたい所等を書いてもらい出来る事から要望に答えている。新聞の読み聞かせや感心の有る事等利用者と会話が出来ている。日頃見かけない様子や変わった動き、つぶやき等は記録に残し介護計画に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や御家族様よりいただいた情報により対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状態を観察し、職員間でその日の情報を共有し、個々に応じた対応を行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様に意向を聞き取りご本人、職員、主治医の意見を参考に介護計画を作成し、職員間で内容共有し、状況変化時はその都度対応している。	家族には面会や電話で聞き取りをし医師の診療、検査の結果等医師のコメントや申し送りノートを参考に介護計画を作成している。6ヶ月毎の更新、3か月に1回モニタリングを行い、期間内に変化が見られた際にはその時の利用者の思いに沿い見直され、家族に報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を観察し、問題があったり状況変化時は連絡ノート、職員間のグループライン、必要時は会議にて話し合い、見直し、改善・実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活・精神面でのニーズを把握し、御家族様、入居者様を含めた対応をしている。 食事の食材もご近所様からのお裾分けの野菜をいただいて作ったり、菜園で入居者様が収穫したものをを使って作ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所様の野菜畑に行かせて頂き野菜をいただいたり、消防・消火訓練にご参加いただいたり、施設の除草作業を手伝うなど協力いただいている。 地域の方達の来苑にて毎年伝統の浮流太鼓の披露がある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携で往診あり、かかりつけ医の選択は本人、御家族様の意向を尊重している。受診時は身体状況を報告し、医療機関との密な連携をとっている。	受診の選択は家族の希望である。症状に応じて検査を行い健康管理されている。往診は月2回、訪問看護は週1回、歯科も訪問があり口腔内をチェックされている。受診の際は身体状況を持参し、医師からの報告は職員で共有されている。夜間、急患も24時間体制であり、医師とのコミュニケーションも良く安心して心強い。	
31		○看護職員との協働 いる。これ蹴れの為に外部、事業所でもけんしゅうを計画されている。	訪問看護は週に1回、状態変化時はその都度いつでも連絡を行い、指示を受け対応できる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、職員、介護支援専門員と日頃より密な情報交換を行い、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期の対応について入居契約時に書面で説明し、意向を伺っている。医療機関との連携があり、必要時は主治医と相談、緊急時は入居者様各個人の書面があり、対応している。	入居時に看取り介護のマニュアルに沿い、重度化や終末について説明され同意を得ている。「あいわ」に変わって看取りの経験はないが、前事業所で看取りの経験のある職員がいる。これからの為に外部、事業所でも研修を計画されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時の発見と対応のフローチャートを作成、各居室に掲示、急変時に応じた活用を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の方と地元住民参加にて、通報・避難訓練、誘導、消火訓練の実施を年2回行っている。 災害訓練では、防災時の備蓄品の用意、確認、防災食や電池などの期限の確認も同時に行っている。 また、実際に入居者様を連れて避難場所の下見に行くなど行っている。	消防署の指導のもと利用者、地域の参加で夜間想定でも火災訓練が実施されている。地域の方には回覧板でお知らせし参加を呼び掛けている。地域の指定避難場所への移動も実施し、経路や移動時間も確認されている。家族にも避難場所は知らせている。水害については海拔が低い為不安であるが消防署と連携が取れている。備蓄の準備も出来ている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の関わりの中で尊厳が保てるよう、個を尊重した言葉、態度を常に意識するよう努めている。 排泄時、入浴時は特に気をつけて対応を行っている。	半年に1回接遇の研修を実施している。言葉遣いにも気を付けられ、大声や声のトーン等その人に合った言葉掛けをしている。方言も上手く取り入れ利用者にわかり易く、理解も早くなり、コミュニケーションも良くなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で、自己決定しやすいような言葉かけを常に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様各自が本人のペースで生活ができるように支援をしている。 個々の得意なこと、好まれることが活かされる様取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へカット依頼、本人の好みに応じた散髪をしている。季節に合わせ、本人の好まれる洋服を着て頂き、行事、写真撮影、受診外来も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養状態を考え、入居者様の好みに合わせた家庭的な献立作りをしている。 行事食で季節を楽しんで頂ける食事をこころがけている。 毎月1回おやつ教室を行い、各自ができる範囲で参加できるように支援している。 入居者様に応じ、できるお手伝いをお願いし、食事に使う野菜の皮むき、胡麻擂り、豆の筋取りなどをして頂いている。	食材の買い物は職員がされている。旬の材料を使い職員でメニューを決めその日の当番が調理されている。彩り、盛り付けも良く家庭的で美味しい。定期的に栄養士に相談され栄養チェックも出来ている。利用者の食べ易い形態にされ殆ど完食されている。職員は料理の説明をし介助しながらの食事である。おやつ作りもあり、どら焼き、牛乳パン作り等楽しみ励みになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスにて、スープ・ゼリーなどで水分量を考え、食事作りを行っている。 脱水防止の為、電解質飲料での水分補給、状態に応じ水分摂取を行い1日の水分量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人の能力に応じた口腔ケアを行い口腔内をチェックしている。できないところは支援している。 義歯洗浄は定期的に行っている。 必要時に訪問歯科診療を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿パターン表を把握し、声かけ、介助を行い、昼はトイレ誘導を行っている。 オムツ使用の入居者様も昼間はリハビリパンツを使用し、トイレでの排泄の支援を行っている。	排泄パターンを利用し自立の為にトイレに誘導されている。夜間はポータブルトイレ使用の方もいる。利用者の動作で排泄の様子がわかる時もあり、その人に合った誘導をしている。ズボンの上げ下げが難しい場合は、声掛けを行い職員が手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水溶性・不溶性両方の食物繊維をバランス良く取り入れるよう食事の工夫を行っている。 水分補給もチェック表で把握し、トイレでの排泄の支援を行っている。 午前・午後共に体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回以上入浴を行い、毎日陰部洗浄、また排便後はその都度洗浄を行っている。 本人様の体調に応じ調整している。 入浴時は職員とゆっくり会話を交わしたり、季節によって柚子風呂や菖蒲湯にし、入浴を楽しんで頂ける様支援している。	利用者の体調や気分によって入浴されている。順番に決まりは無く、一番風呂を嫌がる方等対応されている。入浴剤、季節湯の使用もある。会話しながらゆっくりした時間である。リフト浴、シャワー浴で安全に入浴出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日のベッドメイキング、定期的な布団干し、湯たんぽを利用し、エアコンとダブルの保温を行っている。 また、加湿器使用にて個々の状況に応じて支援している。 日中は希望の方には居室にて休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の変更時は記録表に残し、伝達・周知に努めている。 症状変化時は、ドクターに報告、連携体制をとっている。 薬は飲み忘れの無いよう、日付、名前を伝え確認し、確実に服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の特技を活かし、苑の生活の中でそれぞれにお手伝いをして見守っている。 体を動かすことを好まれる方には無理のない範囲で昼夜問わず見守りを行っている。 歌が得意で披露を好まれる方には、皆の前で歌えるよう支援している。 仕上げた作品は壁に飾っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所へ散歩に出かけ地域の方と挨拶を交わしたりと交流を図っている。 季節の花を観にドライブを行っている。コスモスの季節には空港までドライブ外出など行う。 ゴミ出し、缶出しも散歩と兼ねて行っている。 リビングのカーテンを開け、いつでも外の景色が眺められるようにしている。	コロナ禍の中でも外出出来るように工夫されている。花見等には全員出かけられている。これまでは遠方だったので利用者には負担がかからない様に近場を検討されている。天気のいい日は散歩に出かけ、季節を感じてもらい気分転換や日光浴を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時御家族様に、物盗られ妄想が出現したり問題となり得る事を説明しご了承を得、扱っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話の支援や、御家族様よりいただいたお便り等は目に付く居室に飾ったり、見て頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、毎日手摺、ドアノブ、トイレ、床等の消毒、清掃に努め、換気も定期的に行っている。 清掃管理はチェック表を使用している。 季節の生花を飾ったり、玄関にも飾り付け、外には花壇を作り季節感を感じられる工夫を行っている。	リビングは明るく広い。テレビの前のソファでテレビを見たり、職員は利用者と話しながらマッサージ等思い思いに過ごされている。掃除は職員でされ廊下は感染対策のため消毒液で拭き上げられている。職員は台所から利用者の様子を見ながら調理されている。居室へ続く廊下は障害物もなく安全である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、席の配置は状況に応じている。 テレビの視聴や入居者様同士でより良くコミュニケーションが取れ、会話・交流が取れるよう配置に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、御家族様の意向を聞き、ADL(日常生活動作)や認知状況に応じベッドや家具の配置を行っている。 御家族様の写真や使い慣れた時計を置くなど行っている。	居室入口には非常時の誘導手段のマークが掲げられ、名札や目印がある。クローゼット、衣裳ケースは備え付けである。馴染みの物の持ち込みは自由であるが多くの持ち込みはなく、整理整頓され臭いも感じなく安心して過ごし易くなっている。昼食後は昼寝される方もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能の維持、低下を防げる様、個々に応じた対応を行っている。 排泄や入浴時には手摺にて歩行訓練、トイレ・浴室には分かるように掲示物を貼ってある。 居室にはお名前、写真を掲げている。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない